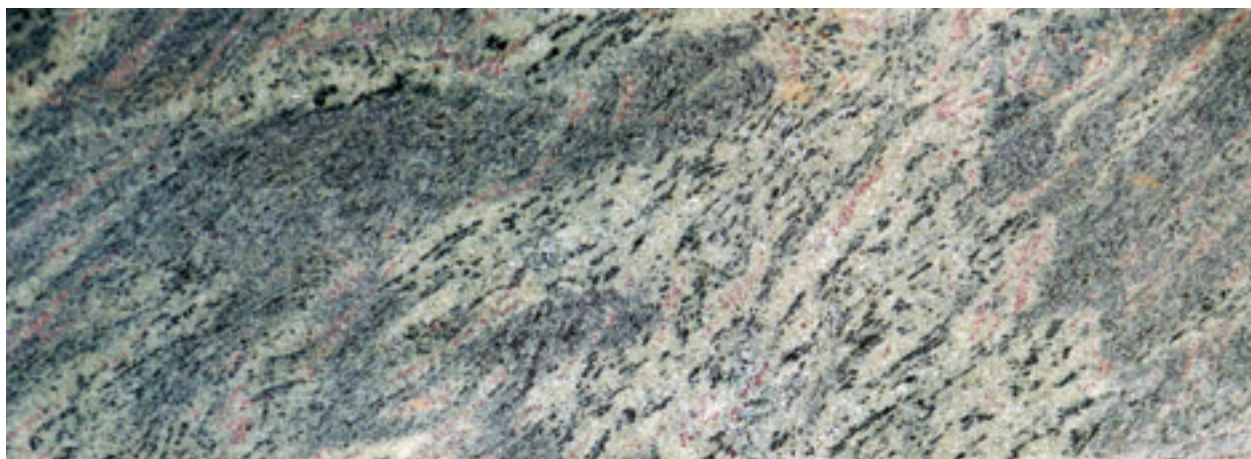


ケララ州のチャノッカイト

<石原舜三>



1. トロピカル グラニット石切場の全景. 中央部が良質の石材.



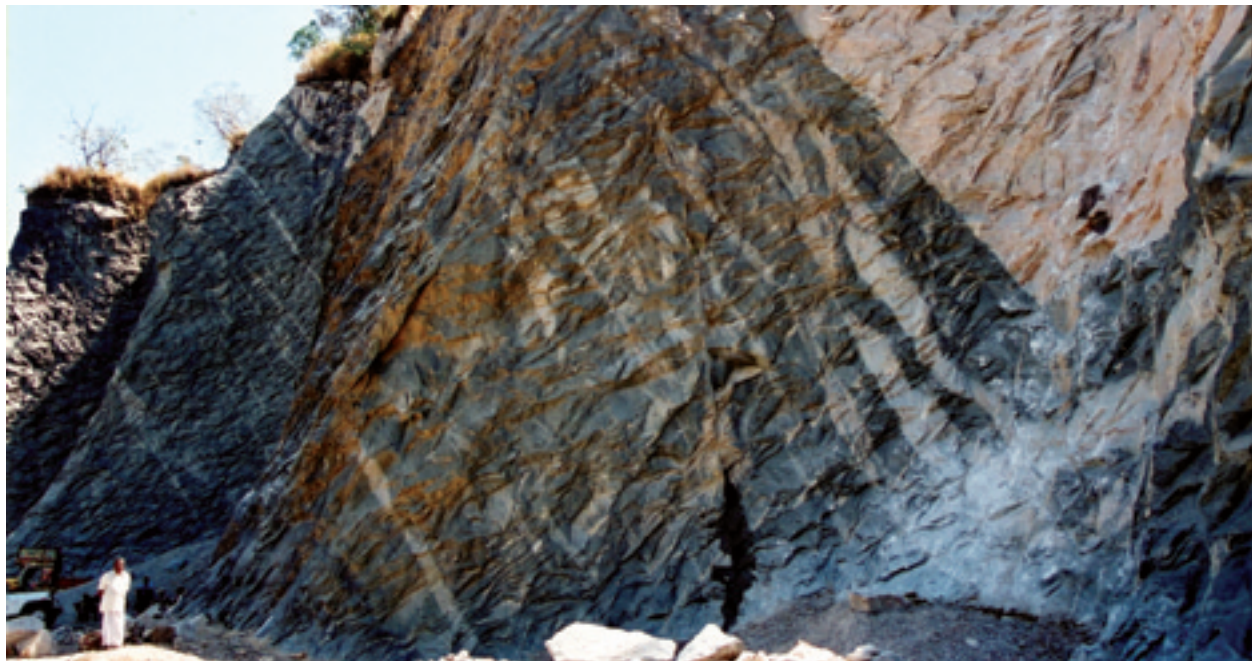
2. ダイヤモンドワイアによる切断面. 縞状組織を持つ. 赤褐色はざくろ石.



3. 近接写真:ざくろ石(赤褐色)–斜方輝石(暗色部)–石英–長石(淡緑色).



4. パドマナーバスワーミ寺院の石彫. チャノッカイトは下回りに使われている.



5. “広義”のチャーノックイト採石場：Polkamdamのエンチャパラにて、花崗岩質部(白色、帯磁率 $11\sim 13\times 10^{-3}\text{SI}$)と苦鉄質部(帯磁率 $20\sim 69\times 10^{-3}\text{SI}$)が互層状。



6. グラニユライト帯のざくろ石-堇青石-黒雲母片麻岩。Kudalにて、パーアルミナスであるが、帯磁率は $68.2\sim 98.5\times 10^{-3}\text{SI}$ であり、著しく磁鉄鉱に富んでいる。



7. 北部の片状に引き伸ばされた斑状黒雲母花崗岩、これも磁鉄鉱系で $11\sim 31\times 10^{-3}\text{SI}$ の帯磁率を持つ。茶畑を展望するKaradiparaにて、天地80cm。



8. 南インド、ケララ州の茶畑。



9. ケララ州の八百屋。